



広島
から

ハウス周りは酢でナメクジ除け

細田実生

世羅町の中田孝雄さんは親子で、14棟のハウスでミズナやカブ、ホウレンソウなどをつくって直売所で販売しています。10年ほど前から野菜のミネラル補給に酢を活用していて、「弱った野菜が元気になる」と

その効果は十分に実感済み。さらに今回教えてくれたのは、「ナメクジ除けにも酢がいい」こと。以前、カブなどの野菜を食害するナメクジに困っていた中田さん、試みに食酢を吹きかけてみると、あつという間に死んでしまったそうです。ナメクジはお酢のニオイも



嫌うようで、かかったところを避けて通ることも発見しました。これはいいと、ハウス周りの防草シートにもジョウロでまくようにしたところ、食害がほとんどなくなったそうです。月に

1回まけば十分ですが、ハウスに湿気が溜まる冬場や梅雨時期は2回ほどまいておきます。食塩をまくと塩害が心配ですが、酢なら安心です。ちなみに酢はカエルやミミズなど皮膚が粘膜の生き物に効果があるようで、虫嫌いの息子さんも重宝している裏ワザだそうです。



福井
から

アスパラのナメクジ除けは鉄釘を置くだけ

井上康生

あわら市の伊藤俊子^{しゅんこ}さんは、ハウス栽培のアスパラを食害するナメクジに悩んでいました。かじられて傷がついたり、曲がってしまうアスパラもちらほら……。直売所で販売するので、農薬はできるだけ使いたくありません。アスパラから遠い場所には薬剤をまきますが、ウネの中にまくのは抵抗がありました。

「ナメクジの忌避剤には鉄が含まれている」と聞いた伊藤さん、試しにウネに鉄釘を置いてみたところ、被害がかなり減ったといえます。やり方は簡単で、ウネのちようど真ん中に、1mおきに鉄釘を2本ずつ寝かせておくだけ。春の立茎前には置いて、年末の刈り込みまでそのまましておきます。鉄を嫌がるのか、ハウスの中でナメクジを見かけても、ウネの中までは侵入してこないそうです。

鉄釘は繰り返し使えるので、お金はほとんどかかりません。みなさんもぜひお試しください。





青森から

木酢＋野草＋香辛野菜のアブラムシ除け液

高橋真央

平川市の葛西輝子さんは、5aほどの畑で多品目の野菜をつくっています。できた野菜の行き先は、娘さんが経営するカフェ「グリーンノート」なので、農薬はできるだけ控えたい。使っているのは、木酢や野草を使った手作り液です。

材料は市販の木酢1ℓに、自生するペパーミントやドクダミ、ニンニク、トウガラシ。分量はとくに決めていないそうですが、ドクダミやペパーミントなら一つかみ、トウガラシ10本、ニンニク10片程度は使います。それぞれ包丁で粗く刻



み、木酢と一緒に味噌樽に入れて、フタをして2カ月ほど置けば完成です。

できた液は、濾してからペットボトル4分の1程度まで入れて、あとはたっぷり水を入れたらシャワーキャップを付け、野菜についたアブラムシをめがけて散布。ア

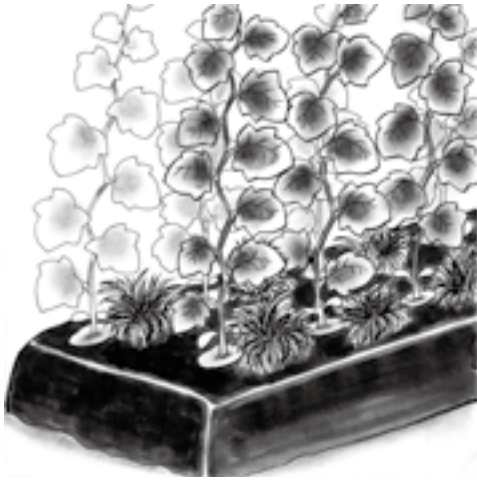
ブラムシはすぐに動かなくなつて死んでしまいます。木酢だけでも効果はありますが、ミントやニンニクのニオイを嫌がるのか、効果がより長持ちするそうです。嗅いでみると、燻製のよくなほのかな香りと、ちょっとおもしろいような薬味の香りがしました。

宮城
から

キュウリのセンチュウ害に緑肥ムギで立ち向かう

渡邊紗恵子

登米市でハウス栽培のキュウリを30aつくる菅原敏之さんの地域では、キュウリのセンチュウ害とホモプシス根腐病が増えている、菅原さんの圃場でも収量が6割落ちた畑があります。対策がかなり難しいようですが、キュウリの株



間に緑肥ムギを播いた圃場では収量が少しずつ回復してきています。

キュウリを年2作つくる菅原さんが2月定植のキュウリに使うのは、「てまいらず」という緑肥ムギ。春播きでも出穂せず草丈30cmほど倒伏する品種なので、収穫の邪魔になりません。5月にマルチをめぐって播種し、出芽後にカッターでマルチを切って頭を出します。7月にはキュウリが終わるので、マルチを剥がしてハンマーナイフモアでムギを粉碎。管理機でウネにすき込みます。

2作目の8月定植のキュウリにも同じようにムギを播きますが、こちらは品種は何でもいいそうです。11月に播種して、作が終わった1月頃にすき込むので、なるべく早く大きくなる品種がいいかなとのこと。



山梨
から

とんがり帽子でアワノメイガを撃退

酒井 潮

「土の中にムギを好む微生物が殖えて、キュウリだけを植えてた頃より微生物のバランスが安

定してきたのではないかと菅原さんは考えています。

無農薬で野菜やイネをつくるにやま韮崎市の椎野弓子さんは、アワノメイガからトウモロコシを守るために、雌穂に「と

んがり帽子」を被せています。5年ほど続けていて、たしかに効果があるそうです。

とんがり帽子は手作りします。A4サイズに折った広告チラシを、くるくると円錐状に丸めてテープで留めるだけ。受粉後の雌穂

に折った広告チラシを、くるくると円錐状に丸めてテープで留めるだけ。受粉後の雌穂



にスポットと被せてあげればできあがりです。椎野さんはトウモロコシを毎年500本ほどつくっていて、帽子を被せたところは一切被害なし。しかし、昨年は帽子が100個ほど足りず、被せてもらえなかったトウモロコシはアワノメイガの餌食になってしまったのだとか。

トウモロコシを無農薬でつくりたい方には、費用がかからないとんがり帽子がおすすめです。